



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2013.9

No.353

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



さいたま市西新井ふるさとの緑の景観地（通称：西新井の森）

浅見 徹(さいたま市)

1. はじめに

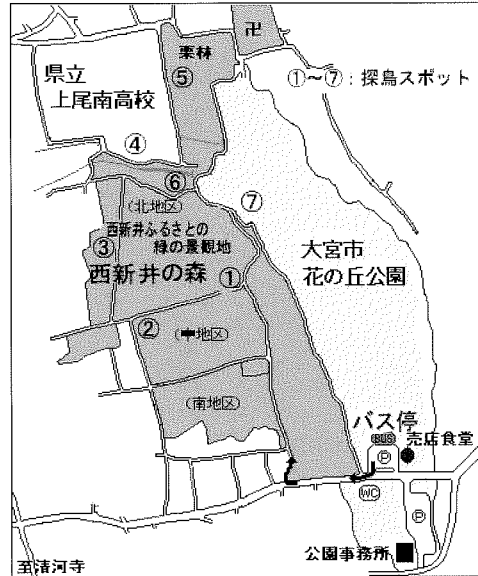
当会のホームページに、「埼玉県内探鳥地MAP」というのがあるのをご存知ですか？ 現在掲載されているのは3カ所ですが、そのうちの一つに「さいたま市西区 大宮花の丘公園」があります（右図参照）。このMAPの元ネタを書いたのが、何を隠そうこの私（だったと思います）。今を去ること15年くらい昔、私の職場がこの近くにあり、昼休みになると食事もそこそこに職場の仲間を誘ってこの森に探鳥に通っていた時代がありました。1995～1999年の足掛け5年間でした。その後、異動により名古屋に転居。そして東京勤務と続き、その間この森を訪れることもありませんでしたが、今年の4月、幸運にも14年ぶりに転勤でこの地に戻ることができました。そこで一念発起！ マイフィールド復活を。

昼休みの間だけのミニ探鳥で、“昼探”と呼んでいます。探鳥ルートはMAPの⑤→⑥→③→②→①→⑦→⑥→⑤がメインです。職場は⑤の栗林からさらに北へ徒歩で5分ほどの所で、森にいられるのはせいぜい30分です。

2. 過去の“昼探”の思い出

こんな身近で、短時間の探鳥ですが、頻繁に通っていると珍しい鳥に出会うこともあります。マイライフリストのここでの初認記録がアオゲラ、クサシギ、トラツグミ、コマドリ、サンコウチョウと5種もあります。以下は、ノートから、コマドリとの出会いです。

1995年6月12日(月)：北地区を抜け中地区の北西角にさしかかった所で遠くからヒンカラカラの声。ナニ！ まさか！ 時計を見ると12:40。このままでは帰れない。声のする方にMさんと2人で進む（スズメバチがじゃましましたが、そっとワキを抜ける）。中地区南西角辺り、声間近。ヤブの中、倒



木の上を探したがダメ。時間切れ。12:52 会社に戻る。前奏がないのでコマドリと思ったが、自分でも信じがたい。

6月13日(火)4:00起床。外を見ると曇り。よし行くぞ。身支度を整えて4:30外に出ると雨が降り出す。それにもメゲずビデオカメラを持って車で自宅を出発。ポイントに着いたのは5:00ころ。それまで静かだった森からヒンカラカラ…。良かった、声だけでもビデオに記録できそう。じっくり待っていると、声は近づいたり遠のいたり。カメラONのまま少し東へ歩くといきなり足元から声。いた。ついに見た。地上で天を向いてヒンカラカラ…。ピョンピョンと道まで出てくる。小型ツグミらしい立派な長い脚。しぶいオレンジの顔。青黒い羽毛の混じった胸から腹。その後、倒木の上…。

こんなことは、ごくごくまれ。普段は、ヒヨドリとシジュウカラとハシブトガラスが遊んでくれるだけです。でも、鳥以外の昆虫や植物など、季節の移り変わりで様々な感動(ち

よっとオーバー)に出会えました。

3. 再開した“昼探”

2013年4月4日(木)に“昼探”を再開して以来、この原稿を書いている7月29日までに45回も出勤しています(少し張り切りすぎ。これからは週1くらいにセーブするつもり)。観察記録を右の表に示します。

14年前と一番変わったのは、MAP⑤南にあったアシ原が埋め立てられて草原になったことです。このため、オオヨシキリが来なくなり、カッコウの声も聞けなくなりました。ガビチョウは居ついてはいないようです。

鳥以外の変化では、アカボシゴマダラを頻繁に見かけるようになりました。うれしい方の変化では森の中でヤマユリが見られたこと。人為的なものかも知れませんが、薄暗い林床に咲く大輪の白い花と香りはハッとするほど美しい。盛夏を迎えて、アブラゼミの音がにぎやかに響きます。今のところ、クマゼミの声は聞こえてきません。

4. おわりに

この原稿を書いている最中、野鳥の会本部から送られてきた探鳥会スタッフ通信 2013年7月号の探鳥会講座で、安西英明さんが書かれた<誰でも世界>という文章に出会いました。

- ・バードウォッチャーに一番大切な心がけは、自分のフィールドを持つこと。
- ・自分のフィールドは、自分のテーマになる。
- ・自然に対する深い見方を培うことができる。
- ・その時々表情の違いを見てとることができるようになる。
- ・その背景に、思いをはせることもできる。
- ・守りたい自然をよく知るという意味で自然保護の原点でもある。
- ・自分のフィールドに足繁く通っていれば、あなたはある意味で「世界一」になれる。

なかなかこの域には達せそうにありませんが、何だか背中を押されたような気がして、“昼探”をできる限り継続し、記録し、残し(伝え)ていきたいと思い始めました。

表. 観察種と観察回数・出現率

2013/04/04~7/25

観察回数: 45回

No.	種名	確認回数 (回)	確認率 (%)
1	カワウ	1	2.2
2	アオサギ	1	2.2
3	カルガモ	12	26.7
4	オオタカ	10	22.2
5	ハイタカ	1	2.2
6	コジュケイ	2	4.4
7	キジ	25	55.6
8	キジバト	42	93.3
9	ホトギス	2	4.4
10	コゲラ	14	31.1
11	ヒバリ	3	6.7
12	ツバメ	44	97.8
13	イワツバメ	1	2.2
14	ハクセキレイ	43	95.6
15	セグロセキレイ	4	8.9
16	ヒヨドリ	45	100
17	モズ	11	24.4
18	アカハラ	1	2.2
19	シロハラ	2	4.4
20	ツグミ	10	22.2
21	ウグイス	4	8.9
22	エゾムシクイ	2	4.4
23	オオルリ	1	2.2
24	エナガ	1	2.2
25	ヤマガラ	4	8.9
26	シジュウカラ	44	97.8
27	メジロ	19	42.2
28	ホオジロ	26	57.8
29	カシラダカ	1	2.2
30	アオジ	8	17.8
31	カワラヒワ	25	55.6
32	シメ	4	8.9
33	スズメ	40	88.9
34	コムクドリ	1	2.2
35	ムクドリ	39	86.7
36	カケス	8	17.8
37	オナガ	13	28.9
38	ハシボソガラス	28	62.2
39	ハシブトガラス	44	97.8
番外	ガビチョウ	2	4.4

野鳥記録委員会の情報

日本野鳥の会埼玉 野鳥記録委員会

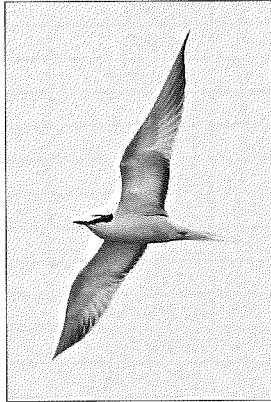
●コシジロアジサシ

分類 チドリ目カモメ科アジサシ属

英名 Aleutian Tern

学名 *Sterna aleutica*

2013年5月13日(月)午前7時30分ころ、本庄市坂東大橋下流500m位の利根川で、コシジロアジサシの群れに混じってコシジロアジサシ1羽が飛んでいるのを会員の森田文



三郎さん(本庄市)が発見。一旦見失いましたが、午後3時30分ころに上武大橋上流で2羽飛んでいるのを、森田さんから連絡を受けて駆けつけた仲間が発見、森田さんが撮影しました。

本種は全長32~34cm、翼開長75~80cm、額と眼の上が白、過眼線・頭頂・後頸は黒、腰・上尾筒・尾は白などの特徴があり、飛翔時は腰の白色部が目立ちます。サハリン・カムチャッカ半島・アリューシャン列島・アラスカ沿岸で繁殖。英名・学名は「アリューシャン」の地名に由来します。越冬地は不明とも、あまり南下しないとも言われます。日本では迷鳥として、北海道・本州(群馬・茨城・千葉・埼玉・神奈川など)・徳島・鹿児島で記録があります。

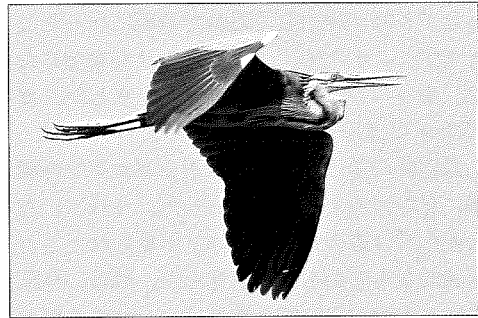
埼玉県では、1995年5月21日に本庄市利根川で撮影されたのが過去唯一の確認記録(本誌1995年10月第138号)で、今回は2回目となりますが、森田さんからのメールによれば、「坂東大橋周辺にはほぼ毎年来てくれる」とのことです。

●ムラサキサギ

分類 ペリカン目サギ科アオサギ属

英名 Purple Heron

学名 *Ardea purpurea*



2013年5月23日(木)、朝霞市上内間木、荒川右岸の武蔵野線鉄橋際土手の上で川崎将男さん(練馬区、当会には入会されてませんが)、上流から下流に飛び去るムラサキサギ1羽を見つけ、撮影しました。

本種は全長78~90cm、翼開長120~150cm、南ヨーロッパ・アフリカ・インド・東南アジアなどに分布、亜種 *A.p. manilensis* は沖縄南部の湿地・マングローブ林に周年生息し、北海道・利尻島・本州・佐渡・見島・四国・九州などで迷行記録があります。

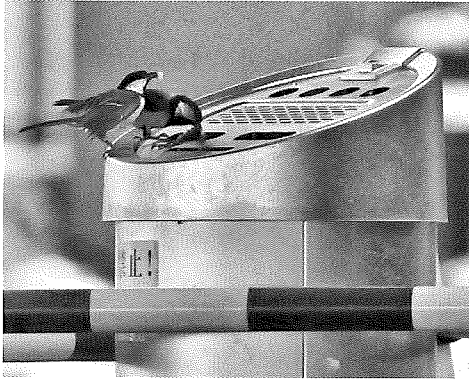
県内では1988年3月7日におそらく本庄市内と思われる場所(地名記載なし)で本種と思われる1羽を観察したとの報告があります(本誌1988年5月第48号)が、写真をとまなう確認記録としては、1990年4月28日、戸田市道満の彩湖が出来る前の工事現場、下流側水門近くのアシ原にいる1羽が写真撮影されたのが過去唯一のもの(本誌1990年6月第73号)で、今回は2例目の確認記録です。

なお、アオサギの若鳥が何らかの事情で茶色に汚れ、本種と混同された例が何度かあります。識別には注意が必要です。

(日本鳥類目録改訂第7版によりサギ科をペリカン目としました。)

シジュウカラの繁殖を支えたもの

(公財)埼玉県公園緑地協会
加須はなさき公園管理事務所
管理課 主幹 加藤博美



餌を運んで来た親鳥(長嶋宏之)

最近、公園を含む公共施設は、誰にでも利用しやすいように、バリアフリー化されつつあり、ユニヴァーサルデザインを志向しています。また、都市公園は、快適な環境や美的景観形成のために、樹木や芝生などで緑化されています。

今回、灰皿にシジュウカラが営巣し、しかも、7羽も巣立ったことは、大変珍しく、公園管理者として嬉しく思っています。既製品であり、全く人工的な金属製の灰皿が巣箱として機能した背景には、灰皿自体の材質、形状、その置かれた場所が営巣に適していたなどの偶然が重なったことに加えて、当時、近くで行われていた工事の関係者を含む従業員

の理解と協力などがあり、更には、日本野鳥の会埼玉の会員でいらっしゃる長嶋様による的確な指導と優しい熱意によるところが大変大きかったと思っております。

今回のシジュウカラの巣立ちは、人間の営みと、野生生物との関係、共生を考える上で、非常に興味深い事例であると思っています。地球は、人間によるインフラ整備や岩石などの無機質な素材による要素だけではなく、そこに棲む多様な生物の相互作用によって、人間も住める環境が形成され、整えられているのだと思います。最近では、スズメなど、昔は日常的に多数の個体が見かけられた鳥も、人間の住む家との関係で、数が減ってきている野鳥も少なくないと聞いており、大変、残念に思っております。

私どもの管理する加須はなさき公園では、日本野鳥の会埼玉との共催による「野鳥観察会」を年3回開催しており、今までに80種類以上の野鳥が観察されています。当公園の野鳥に興味をお持ちの方は、この野鳥観察会に、是非、御参加ください。私共、人に優しい公園整備を心がけている者といたしましては、今後とも、人にも、野鳥を含む野生生物にも、可能な限り、優しい公園管理に努めて参りたいと存じます。

(編集部：写真をよく見ると、営巣した灰皿は、「使用禁止」のラベルが貼られ、接近注意を促す工事用の黒黄の棒で囲まれています)



6月2日(日) 新潟県魚沼市・銀山平探鳥会



7月14日(日) 熊谷市・大麻生探鳥会



野鳥情報

三郷市彦成3丁目 ◇5月11日から毎日のように鳴いていたカッコウも、7月13日を最後に聞かれなくなった。来年も待っています。7月25日、今年生まれのチョウゲンボウがミンミンゼミのフライキャッチに成功。当地は、セミの羽化が本格化する毎年7月下旬になると、チョウゲンボウ2～3羽が出現する（山部直喜）。

嵐山町槻川 ◇6月5日、ホトトギスの声を聞く（秋元久雄）。

蓮田市貝塚 ◇6月8日午後5時頃、山の神沼近くの田んぼの中に、えさ取り中のセイタカシギ1羽（篠葉利夫）。

春日部市増田新田 ◇6月11日午前7時29分、自宅東方、遠いところからカッコウの声が届く。姿、場所はわからず。同日午前10時5分、再びカッコウの声を聞いた。6月13日午前10時45分頃、一時雨がやんだ曇り空、自宅北側道路上の空間でツバメ1羽がガンボのような昆虫をくわえながら、時々口から落としては空中で捉え直すという行動を7～8回ほど繰り返し、最後は近くの電線にとまって食べてしまった。ツバメの遊び行動かなと思い、見とれてしまった（石川敏男）。

羽生市羽生水郷公園 ◇6月13日、50年ぶりにカッコウの声を聞き感無量でした。バス停の方でキジ、オナガ、カワラヒワ、セッカ（秋元久雄）。

さいたま市岩槻区長宮 ◇6月14日、6月初めに激減したコアジサシが増えてきた。飛び回っている個体15羽土、抱卵中と思われる個体7～8羽。一方、カメラマンは激減。本日は1人もなし。これでコアジサシは、安心して子育てできるかも。7月1日、コアジサシの雛少なくとも4羽。コチドリの雛7～8羽、ちょこちょこ歩きまわる。7月13日、コアジサシ、飛べるようになった幼鳥が4羽。7月1日に観察された雛が成長したものと思われる。他に、もう少しで飛べそうな幼鳥が2羽、孵化後間もない雛

が2羽。7月23日、コアジサシ、飛べそうな幼鳥が3～4羽。まだ小さいのが4～5羽（小林みどり）。

白岡市柴山 ◇6月15日、田んぼでアマサギ5羽、頭のオレンジ色がきれい。今季初認（本多己秀・久文子）。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇6月16日、西沼でツバメが何度も水切りをしていた。コアジサシが2羽、小魚をくわえて、西に飛び去った。カワラヒワが電線で囀っていた。ホオジロがどこかで囀っていた。今年はホオジロの囀りをしばしば聞く。その他、ハクセキレイ、オオヨシキリ、カワセミ等。6月29日、3羽のハクセキレイの巣立ち雛に親鳥が鳴きながら餌を運んでいた。ムクドリ20羽土がヤマモモの実に群がっていた。カワセミがデッキの下の巣穴に頻繁に出入りしていた。雛がいるようだ。ハシボソガラスの巣立ち雛が2羽、甘えて餌ねだりしていた。その他、アオサギ、カルガモ、コジュケイ、コゲラ等（長嶋宏之）。

東秩父村白石 ◇6月22日、ホトトギス、カケス、ホオジロ（秋元久雄）。

飯能市刈場坂 ◇6月22日、キビタキ、カケス（秋元久雄）。

鴻巣市堤町 ◇6月24日午前8時頃、飛来した1羽のチョウゲンボウに、30羽十のツバメがスクランブル。それはもう、大変な騒ぎに（榎本みち子）。

川口市 ◇6月25日午後7時45分頃、フクロウ1羽、会社からの帰宅時に、道路横の木にとまっているのを見つけた＝下写真＝。視認できたのは久しぶり。背広姿で10分間程観察した（須崎 聡）。



横瀬町県民の森 ◇6月27日、アオゲラ、トビ、ホオジロ（秋元久雄）。

蓮田市ふれあいの森 ◇6月27日、松の樹でツミが営巣。小さな雛がいるようだ。ここでの繁殖は2008年、2009年以来だ。ツミとしては遅い繁殖で、雛が無事に巣立ちできるか心配だ（長嶋宏之）。

久喜市久喜菖蒲公園 ◇6月28日午後6時、昭和沼の浮島でゴイサギの成鳥16羽に雛が4羽見えた。浮島で繁殖したようだ。6時20分～35分、ゴイサギとサギ類が次々と飛び立った。サギ類は東方にある他の埜に移動するようだ。6時43分、アマサギの20羽の群れが降り、続いて6時46分、アマサギ25羽士の群れが降りた。大半が亜麻色の繁殖羽だ。6時50分、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、ゴイサギ、アマサギ等々、全部で100羽+となった（長嶋宏之）。

さいたま市見沼区宮ヶ谷塔 ◇7月1日午前10時頃、ヒクイナ。古の歌人が表現した戸を叩くような音が響いていたが、残念ながら姿は見られなかった。ゆっくりとアシ原の中を移動しているようだった（菊川和男）。

さいたま市見沼区染谷 ◇7月2日、幼稚園の建物にツバメの巣が12カ所。8カ所では、すでに巣立ち、抱卵中が4カ所。これは2番子かもしれない（小林みどり）。

さいたま市緑区見沼自然公園 ◇7月2日、池にカルガモ3羽、カイツブリ1羽、オオバン1羽。上空をカウ1羽が通過。シジュウカラの幼鳥たちは、もう自力で採食している。メジロ1羽、長さ3～4cmの青虫を食べている。ハシボソガラス、次列風切が白化した個体1羽。遠くでオオヨシキリの声。7月19日、スズメの親子連れ（成鳥1羽、幼鳥3羽）。幼鳥たちは親の後を一生懸命追いかけて、食べ物ももらっている（小林みどり）。

蓮田市東 ◇7月5日、ツミの巣が落ちて、大きくなっていた雛3羽が皆死んでしまった。親鳥はTVアンテナの上で心なしか悲しげに鳴いていた（本多己秀・久文字）。

坂戸市高麗川 ◇7月10日午前8時30分頃、浅羽ビオトープ合歓の木（ネムノキ）広場

前を流れる高麗川本流の、右岸水辺でオシドリ♀1羽。5月下旬にも、上流の多和田橋近くで他の人によって、観察・写真撮影されている。同一個体かは不明（増尾 隆）。

行田市桜町 ◇7月10日午後2時30分頃、石材店の屋根つきクレーン設備自宅二階ベランダの軒下にシラコバトが巣を造り、2羽の雛。ご夫婦との話から、この2～3日後には巣立ちすると思われる。今年2度目で2羽ずつ無事に孵っている。昨年は、3度2羽ずつ卵から孵って、1回だけ雛が育たなかった（茂木幸蔵）。

さいたま市見沼区加田屋 ◇7月11日、水田でチュウサギ1羽、ドジョウを捕食。他にアオサギ、ダイサギ、コサギが1羽ずつ。稲の陰からカルガモが登場。次から次に現れ、全部で9羽。大きさはほとんど同じで、親子かどうかは不明。加田屋川で久しぶりにカワセミ1羽。7月19日、オオタカ成鳥1羽、携帯電話の電波塔の上にとまっていた（小林みどり）。

嵐山町蝶の里公園 ◇7月13日、ホトトギスがけたたましく鳴いていた。ガビチョウとウグイスの囀り。毎年この時期、オオムラサキを見に通っているが、今年は、もうシーズンオフとのこと。♀1頭をやっと確認できたのみ（藤原寛治）。

越谷市大成町7丁目 ◇7月19日、セイタカシギ9羽、全て足輪無し。アオアシシギ1羽、コサギ11羽（山部直喜）。

越谷市大成町5丁目 ◇7月19日、ヨシゴイ♂2羽、♀1羽。コアシサシがかわるがわるダイビング。アシサシの仲間の英名はTernのつくものが多い。私はずっとTurnと思っていた。後日、改めて綴りを確認して思い違いを発見。しかし発音記号は同じだった。個人的には、コアシサシの飛び方はまさにTurnだと思っている。他にバン2羽、オオバン1羽。カイツブリ8羽（山部直喜）。

表紙の写真

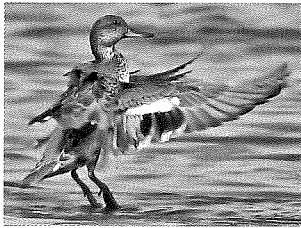
スズメ目ヒタキ科オオルリ属オオルリ

今年生まれた幼鳥が、初めての旅の途中で伸び。雨覆の青が際立つ。

蟹瀬武男（さいたま市）



行事案内



コガモ

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。
参加費：就学前の子無料、会員と小中学生50円、一般100円。
持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後1時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

リーダー研修会(要予約)

期日：9月1日(日)

詳細は8月号をご覧ください。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：9月8日(日)

集合：午前8時20分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷8:00発、または寄居7:39発に乗車。

担当：茂木、新井(巖)、鵜飼、倉崎、千島、飛田、中川、村上

見どころ：厳しい残暑が続いていますが、森の中では、たくさんの生きものが活動しています。小鳥たちもそろそろ顔を見せてくれることでしょうか。探鳥会にレッツゴー!!
ご注意：今月まで、集合の早い夏時間です。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：9月15日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：小林(み)、青木、赤堀、浅見、楠見、倉林、小菅、柴野、須崎、新部、畠山、増田、若林

見所：暑さの中にも、しのびよる秋の気配が感じられる季節。身近な鳥たちの暮らしに、変化を見つけましょう。冬鳥のトップランナー、コガモに会えるでしょうか？

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：9月15日(日)

集合：午前8時、東武越生線川角駅前。

交通：東武東上線川越 7:19(準急) → 坂戸で越生線乗り換え 7:40 発。または寄居 6:43 → 小川町乗り継ぎ、坂戸で越生線乗り換え。JR 埼京線大宮 6:37 → 川越で東武東上線乗り換え。

担当：山口、久保田、志村、杉原、高草木、藤掛、藤澤、増尾、持丸

見どころ：1986～2002年毎回確認されていたコサギが、2003年以降出現が減り、2007年以降は記録がありません。1986～1995年の9年間に3回しか記録されていないダイサギが、1999年以降は毎回確認されています。何故なのか、皆で考えてみたいと思います。イカルは見られるかな。ヒガンバナはどうかしら。

松伏町・松伏記念公園探鳥会

期日：9月16日(月・祝)

集合：午前9時30分、松伏記念公園北口駐車場付近。

交通：東武伊勢崎線北越谷駅東口、①番バス乗り場から、8:57 発、茨城急行バス「エローラ行き」乗車。松伏高校前で下車すれば、集合地の公園駐車場があります。

担当：田邊、植平、榎本(建)、佐藤、佐野、進士、野村(修)、野村(弘)、橋口、森下、吉岡

見どころ：公園の小鳥、調整池の水鳥、広い農耕地に棲む鳥を探します。真っ赤なヒガンバナも迎えてくれます。近年、6種のサギ類は定番になっています。気の早い冬鳥が見られれば疲れもきっと吹き飛びますよ。親子連れ大歓迎です。

その他：今回は地元の公民館と共催の予定。

シギ・チドリ類県内調査

期日：9月16日（月・祝）

春と秋の2回、当会独自の調査です。多くの会員の参加・ご協力をお願いいたします。

◆ 大久保農耕地（さいたま市）

集合：午前9時30分大久保浄水場の北西角近くの土手の上、荒川総合運動公園入口。

担当：石井

解散は昼頃の予定。調査のため参加費不要。雨天決行。「やつしまニュータウン」バス停から土手上を歩く道は、公園内の迂回路も全て通れません。終点の「大久保浄水場」で降りてバス進行方向に進み突き当たり右、浄水場に沿って左左と2回曲がって突き当たり土手の上、徒歩約15分です。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：9月21日（土）午後3時～4時ころ
会場：会事務局 108号室

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：9月22日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。
交通：西武新宿線本川越8:42発、所沢8:39発に乗車。

解散：正午ころ、稻荷山公園。

担当：長谷部、石光、久保田、鈴木、高草木、中村(祐)、藤掛、星、間正、水谷、山口、山本(真)

見どころ：翌日は秋分の日。まだ暑いかもしれませんが、秋らしいものを探してみましよう。渡り途中の鳥たちも時々見られます。

長野県・白樺峠探鳥会(要予約)

期日：9月22日(日)～23日(月・祝)

詳細は8月号をご覧ください。

タカの渡り調査

毎年行う大切な定点観測です。初めての方も大歓迎。雨天（小雨でも）中止。調査のため参加費不要。いずれも調査時間内のご都合のよいときに、各調査地点にお出かけ下さい。

◆ 中間平展望台（寄居町秋山）

日時：9月29日（日）午前8時～正午まで。
交通：車で寄居方面から県道294号線を東秩父方面に向かい、秋山地区で「中間平緑地公園」の道標に従い右に分岐。老人ホーム「あきやま苑」を通り過ぎ、狭い山道を登った中間平緑地公園の中にある道路脇の展望テラスです（駐車場、トイレあり）。

担当：千島

◆ 天覧山展望台（飯能市）

日時：9月29日（日）午前8時～正午まで。
近くに水洗トイレがあります。
交通：西武池袋線飯能駅から徒歩約30分。
担当：佐久間

長野県・戸隠高原探鳥会（要予約）

期日：10月26日（土）～27日（日）

集合：26日午前9時、長野駅コンコース新幹線改札口を出て右側。

交通：長野新幹線「あさま503号」（東京6:52→大宮7:18→熊谷7:31→高崎7:49→長野8:43着）、または「あさま505号」（東京7:24→大宮7:48→長野8:49着）。

費用：11,000円の予定（1泊3食、現地バス代、保険料など）。過不足の場合は当日精算。

集合地までの往復交通費は各自負担。

定員：30名（先着順、埼玉会員優先）。

申込み：往復はがきに住所、氏名、年齢、性別、電話番号、喫煙の有無を明記し、菱沼一充

まで、9月1日消印から有効受付。

担当：菱沼(一)、中里、藤掛

見どころ：埼玉では見る機会の少ないムギマキを見る探鳥会です。紅葉、温泉、新そばと、その他の楽しみも盛りだくさんです。ご注意：宿泊は男女別の相部屋です。個室の用意はできません。列車発着時刻については、時刻表で確認をお願いします。



行事報告

3月9日(土) 坂戸市 高麗川

参加：28名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ カルガモ トビ
 オオタカ ノスリ オオバン イカルチドリ イ
 ソシギ キジバト カワセミ ヒバリ キセキレイ
 イ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ
 モズ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ
 メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジ
 ユリン カワラヒワ マヒワ イカル シメ ス
 ズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラ
 ス (35種) (番外：ガビチョウ) 2ヵ所でマヒワの
 群れが見られた。マヒワは1988、1997年の探鳥会
 以来3回目の確認。樹上のノスリを全員でじっく
 り観察、オオタカも飛んでくれた。旋回しながら
 1羽のカラスを追いかけるトビ、いつもと逆の光
 景に見とれる。梅も、杉も花が満開でウグイスの
 さえずりの練習も始まった。城西大学学生で高麗
 川の環境保護や研究をしているグループの4名が
 参加。 (山口芳邦)

3月10日(日) 熊谷市 大麻生

参加：45名 天気：晴

カイツブリ カワウ オオタカ ノスリ コジュ
 ケイ キジバト カワセミ アカゲラ コゲラ
 ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズ
 イ ヒヨドリ モズ キレンジャク ジョウビタ
 キ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス ヒ
 ガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジ
 ロ カシラダカ アオジ クロジ カワラヒワ
 シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシ
 ブトガラス (35種) (番外：ガビチョウ) 予報どお
 り暑いぐらいの陽気になった。土手に上がったと
 ころでアオジ、ホオジロ、ジョウビタキなどが見
 られたが、その後はアカゲラが出たぐらいでちょ
 っとダレ気味になったところにキレンジャクが1
 羽登場、至近距離のお立ち台で長い間ポーズをと
 ってくれた。一転して皆ニコニコ。終点の池でも
 アカハラ、シロハラ、クロジなどが歓迎してくれ
 て、満足の探鳥会だった。 (新井 巖)

3月16日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：13名

相原修一、石塚敬二郎、海老原教子、大坂幸男、
 佐久間博文、柴野耕一郎、志村佐治、藤掛保司、
 増尾隆、松村禎夫、山口芳邦、吉原早苗、吉原俊
 雄

3月17日(日) さいたま市 三室地区

参加：80名 天気：晴

カイツブリ カワウ アオサギ カルガモ コガ
 モ オカヨシガモ ヒドリガモ ハシビロガモ
 オオタカ キジ バン オオバン タシギ キジ
 バト カワセミ ヒバリ ハクセキレイ セグロ
 セキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ
 ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ ア
 オジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソ
 ガラス ハシブトガラス (32種) (番外：ドバト)
 よく晴れて暖かくなった。サンシュユやモクレン
 が咲き、畑の風景も華やかである。春のうららか
 さに誘われたのか、キジの雄が何度か顔を出した。
 ヒバリやムクドリは、ペアで仲良く食べ物探し。
 カモ類やツグミなど冬鳥の姿もまだ見られた。期
 待していたツバメやコチドリとの出会いは、次回
 以降にお預け。ところで今回は、参加者80名のう
 ち約4割が一般参加。この定例探鳥会が「サンケ
 イリビング」で紹介された効果があったようだ。
 記者のFさんに感謝！ (小林みどり)

3月17日(日) 松伏町 松伏記念公園

参加：28名 天気：晴

ダイサギ カルガモ コガモ オナガガモ ノス
 リ キジ バン オオバン キジバト コゲラ
 ヒバリ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウ
 ビタキ シロハラ ツグミ シジュウカラ メジ
 ロ ホオジロ コジュリン カシラダカ アオジ
 シベリアジュリン オオジュリン カワラヒワ
 マヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラ
 ス ハシブトガラス (32種) (番外：ドバト) 東京
 では桜の開花宣言が出た絶好の鳥見日和。公園の
 池ではコガモとオナガガモが残っており、水辺の
 林では移動途中のマヒワの群れを望遠。足元にシ
 ロハラとアオジ。農耕地に出るとまるで砂漠を行
 くが如し、中川の堤防道に出てやっと探鳥会らし
 くなった。先頭を歩いていた組がオオジュリンを
 見つけて、しばらくすると「コジュリンもいる」

との声。スコープで確認した。鳥合わせの前の打ち合わせで列の後ろに居た組から「シベリアジュリンを見た、コジュリンではない」との声も出る。どちらも鳥見の超ベテランの意見で賛同者も2名以上。結局、それぞれ見た場所と時間に差があるので3種の「ジュリン」を記録に残す。最後の出現鳥がキジのオス。春の日差しを浴びて堂々と歩く姿にしばし時間を忘れた。(田邊八州雄)

3月20日(水、休) 長瀬町 宝登山

参加: 32名 天気: 曇

カワウ トビ ノスリ キジ キジバト コゲラ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ ウソ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) (番外: ガビチョウ) 朝方降った雨とほぼ無風で、花粉症の方は一安心。まずはツバメを確認。ハイカーが少ないので鳥に期待するがとにかく少ない。山登り途中2ヵ所でウソの小群を全員でゆっくり見られたが盛り上がり弱い。楽しみな山々の展望も遠くが見えず残念。しかしロープウエー山頂駅広場から広がる梅園の花々は見事に咲き目を楽しませてくれた。宝登山(宝の山)に登った皆さんは金運、吉。さらに奥社にお参りした方は大吉。みなさんお疲れ様でした。(井上幹男)

3月23日(土) 栃木県 日光東照宮裏山

参加: 52名 天気: 晴

トビ ノスリ アカゲラ コゲラ ツバメ イワツバメ キセキレイ ヒヨドリ カワガラス ミソサザイ ジョウビタキ ツグミ キクイタダキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ ホオジロ アオジ ハシボソガラス ハシブトガラス (24種) あたかな日。大谷川でカワガラスとミソサザイを見て稲荷川沿いの道に入るとキクイタダキやカラ類が現れ始めた。キバシリは数人が見ただけだったがミソサザイは何度も姿を見せてくれて大満足だった。稲荷川岸で昼食時にノスリが頭上を飛んだが期待の大物はダメだった。代わりに対岸の木で綺麗なアカゲラがじっとして、さらに近くに飛んでくるサービスで盛り上がった。(玉井正晴)

3月23日(土) 加須市 加須はなさき公園

参加: 22名 天気: 晴

カイツブリ カワウ カルガモ コガモ ヒドリガモ オオタカ チョウゲンボウ キジバト コゲラ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) 始まって間もなく、鉄塔のハシボソガラスを見ていたら、オオタカが頭上を真一文字に飛んだ。これでムードが一度に和んだ。木陰の芝生でシメが採餌している。「初めて見た」「これがシメか」参加者から声があがった。フェンスの上にジョウビタキ♀。池ではカイツブリが繁殖羽に換羽済だ。ヒドリガモの群れが陸で草を食べている。植物園に入ると、カケスが鳴き、シロハラが地面を走った。モズが枝先で鳴き、ウグイスも鳴いている。梢でカワラヒワが囀り、シジュウカラも負けじと大声を出している。後ろの数人がヒガラ、ヤマガラ、メジロの混群を楽しんだようだ。終り近く、いつもの場所にチョウゲンボウの姿があった。渡去前の太ったアオジに見送られて共催探鳥会を終えた。(長嶋宏之)

3月24日(日) 狭山市 入間川

参加: 26名 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ マガモ カルガモ コガモ オオタカ クイナ バン オオバン コチドリ イカルチドリ イソシギ タシギ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (41種) (番外: ドバト) サクラの開花が早かったため、花見客を避けて稲荷山公園での鳥見を減らし、河原で過ごす時間を多めにした。いつもよりゆっくり見たためか、普段なかなか見つからないタシギや初記録のクイナが出てきて活気のある探鳥会となった。入間川を離れ例年通りカタクリを見に行くと、今年は花数が多く頭上の桜とともに豪華な花見を楽しむことができた。(長谷部謙二)



●日本野鳥の会千葉県から

7月14日に事務所を移転し、電話番号も変更するとの連絡が届きました。

新事務所 〒273-0021 船橋市海神2-2-11 シャンブルレポ105
TEL 047-431-3511 (FAX 兼用)

●野鳥の巣には近づかないで

表紙の写真などをご投稿くださいとの呼びかけにお応えいただき、ありがとうございます。ただその中には、キツツキの巣穴やツミの巣などの写真などが何点含まれていました。

前に何度もお伝えしましたが、野鳥の会では、子育て中の野鳥にストレスを与えないように、巣にレンズを向けない、巣に近づかないことを、呼びかけています。

子育てに限らず、野鳥たちの生活にストレスを与えないように、十分にご注意をお願いします。巣そのものは写っていても、巣の近くで撮影したことが疑われる写真も、巣の写真と同様に、一切採用しません。

巣から離れた所で、野鳥たちのくつろぐ姿を、季節感とともにそっと撮影させてもらった写真を、お待ちしております。

●会員の普及活動

5月25日(土)に開催された新ハイキングクラブ主催行事、広瀬野鳥の森(熊谷市大麻生)ハイキングで、小林みどり・藤田敏恵・柴野耕一郎が野鳥観察を指導。参加者12名、野鳥24種。鳥合わせの最中にホトトギスが枯れ枝の上にとまり、「鳥の数

が多い」「また来たい」という声が聞かれました。

会員数は

8月1日現在 1,869人。

活動と予定

●7月の活動

7月13日(土)『しらこぼと』8月号校正(小林みどり、浅見徹、長嶋宏之)、7月16日(火)同(海老原美夫)。

7月21日(日)役員会(司会:森本國夫、各部の報告・熱気球を中心とした見沼たんぼイベントへの出展依頼に対し、日程上の都合で不参加決定・その他)。

7月22日(月)「埼玉会報だけの会員」に向け『しらこぼと』8月号を郵便局から発送(海老原美夫)。

●9月の予定

9月7日(土)編集部・普及部・研究部会。
9月14日(土)10月号校正(午後4時から)。
9月15日(日)役員会(午後4時から)。
9月21日(土)袋づめの会(午後3時から)。

編集後記

前月号「リーダー研修会報告」に対し、「面白い」と言ってくくださる一方で、厳しいご意見もいただきました。会員の皆さんすべてに向ける会報編集の難しさを、あらためて感じています。(海)

「コサギが減っている」と感じてはいました。そのことが今月号の高麗川探鳥会の見どころに数字で具体的に述べられています。普通種の記録の蓄積、その大切さを改めて感じました。(部)

蓄積された記録は、あなたの宝物。それを発表すれば、みんなの宝物…。『しらこぼと』に、宝物作りのお手伝いができるといいな。(ど)

しらこぼと 2013年9月号(第353号) 定価 200円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130
〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
(公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社